◆左京三条一坊十四坪の調査 ―第282-3次

はじめに　店舗建設の事前調査。左京三条一坊十四坪東辺のほぼ中央部にあたる。坪内は過去に第46次（昭和42年度）、第249次調査（平成６年度）がおこなわれている。今回は、南北に２つの調査区を設定した。北区は88㎡、南区は67.5㎡。調査期間は５月６日～30日。

検出遺構　東一坊大路西側溝と時期不明の土坑などを検出した。東一坊大路西側溝SD4951は調査区東半にあって南に流れる。堆積土の状況から大きく２層に分かれる。

出土遺物　SD4951から土器、瓦、木製品、金属製品、木簡、その他が出土した。土器は数十点、瓦は6311Aaを含む軒瓦４点などが出土したが、溝各層位との対応は認められない。木製品は人形２点、桧扇13点、鳴鏑、鏃のためし各１点など計31点。金属製品は銅製人形３点、鉄製人形１点など計６点、その他に鉱滓12点、鞴羽口１点がある。また、瓜の種が9,506個出土しており、溝の上流に便所の存在を想定できよう。　（清野孝之）

木簡はSD4951から、堆積土下層を中心に139点（うち削屑121点）が出土した。①は主蔵監が所管の春宮坊に宿直者名を報告した木簡。主蔵監は、皇太子の宝物や衣服を掌る官司である。②にみえる少録は八省か省レベルの官司の第四等官だが、記載位階はやや高い。③は玉の様（見本）の付札である。　（山下信一郎）

まとめ　今回の調査では東一坊大路西側溝の位置を確認し、溝内よりさまざまな遺物が出土した。とくに春宮坊関連の木簡出土の意義は大きい。　（清野孝之）

第二八二－三次調査出土木簡

SD四九五一出土木簡

① ・主蔵監□宿□　［申　侍ヵ］⌈　⌋　⌈　⌋

　（「主」ヨリ「寸」ノ字ノ上ニ左ノ重書アリ）「□旦⌈　⌋」　□⌋忌寸□⌋

　・「依右長□□」［聞ヵ］　300・39・4　011

② 少録正六位上⌈　⌋　(64)・(25)・2　081

③ 玉様　(111)・11・4　019

④ 米七俵　(111)・17・5　039

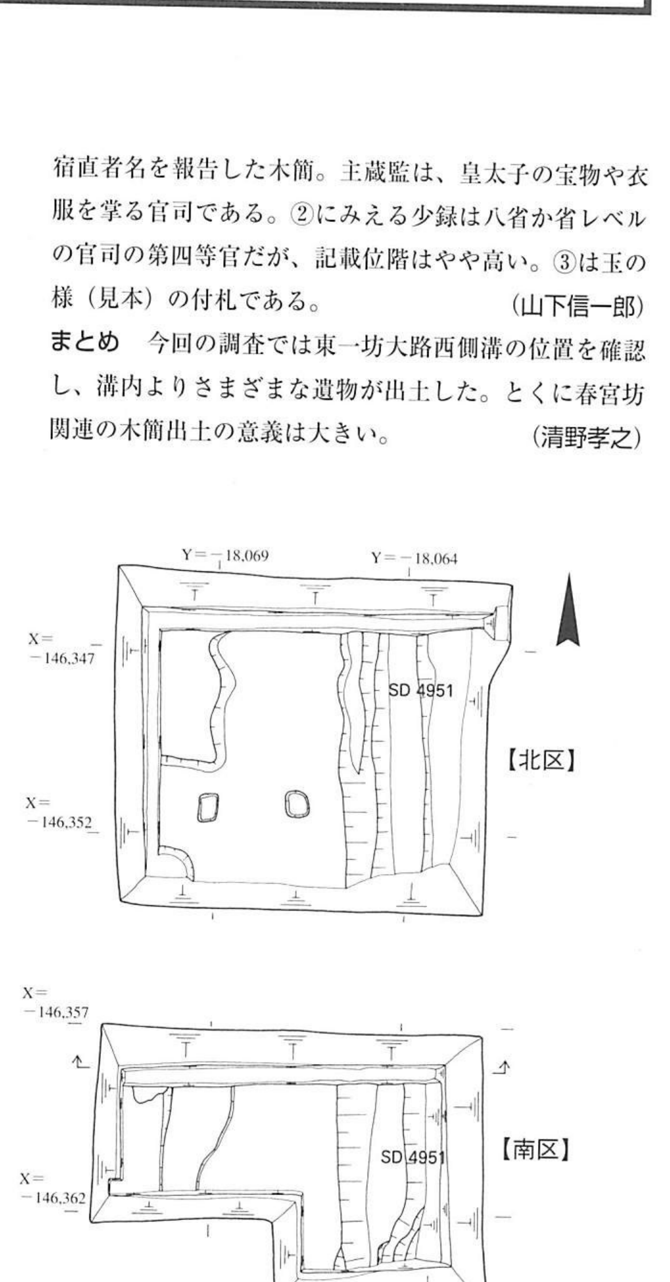

図74　第282-3次調査　遺構図　1：200